

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

学校名	佐賀県立中原特別支援学校(鳥栖田代分校)	達成度(評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	<p>○令和6年度校務分掌組織において、自立活動部を「自立活動部」と「研究部」に分離し、それぞれの役割を明確にしつつ連携をとることで、自立活動の推進、授業づくりの充実等、専門性の向上を図ることができた。</p> <p>○進路指導、特別支援教育のセンター的機能、ICTの充実については、保護者や地域への周知・啓発を促進し、人的な制限下でできる取組を精選しながら、充実を図る必要がある。</p> <p>○教育課程の適切な実施と、校務運営の効率化において一定の成果が見られたが、令和8年度開校予定の鳥栖特別支援学校への機能集約も意識しながら、引き続き、全職員で取り組む支援体制を強化する必要がある。</p>	
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかに豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。	
3 本年度の重点目標	<p>「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」</p> <p>① 専門性の更なる向上と、教育活動への反映</p> <p>② 個に応じた自立活動の指導の充実</p> <p>③ 鳥栖特別支援学校への移行と学びの連続性を意識した取組の充実</p>	

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	<p>●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による生きる力の育成</p>	<p>○知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本を踏まえ、一人一人の各教科等の実施状況と評価により、生きる力を育成できたとする教員が80%以上</p> <p>○一人一人のニーズに応じた指導・支援をとおして、日常生活や社会生活に生きる力が身に付いていると答える保護者が80%以上</p>	<p>・個別の指導計画の位置付け及び知的障害の各教科等の内容と「学びの履歴」を踏まえた計画の作成・活用・評価、POCAサイクルに基づいて授業改善について、紙面や口頭により周知徹底を図る。</p> <p>・複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行えるよう、年3回個別の指導計画検討会をもつ。</p> <p>・教務主任、主事等が、知的障害のある児童生徒の学習上の特性等を踏まえた指導・支援の在り方について指導助言を行う。</p>	A	<p>・アンケート結果は、数値的には職員・保護者とも中間からやや微減だが、「どちらかと言えばそう思わない」とした保護者が1名であり、概ね良好な評価結果となった。</p> <p>・前期に引き続き、知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本を踏まえ、教員間、教員と保護者間で連携を図りながら、日常生活や社会生活へのつながりを意識した教育活動を行うことができた。</p> <p>・分校の閉校により、環境の大きな変化が予想されるが、今年度の取組の成果を新設校においても生かし、生活の文脈を大切にしながら実践を深めてほしいと考える。</p>	A	<p>・個々人の対応にご苦労されていることが分かります。</p> <p>・保護者などの高い評価が得られていて素晴らしいと思います。分校の閉校後も新設校でこれまでの取組の継続ができると思います。</p> <p>・数値目標も達成し、児童生徒の学力定着につながっていると思います。今後も学力向上のため様々な改善を実施してください。</p>	教務部
●心の教育	<p>●児童生徒が、他者への思いやりや社会性、感動する心などの豊かな心を身に付ける教育活動</p>	<p>○学校生活全般において、「思いやりや豊かな心」を育むことを意識して指導・支援を行ったと答える教員が80%以上</p> <p>○学校生活を通して、児童生徒は「思いやりや豊かな心」を育んでいると思う保護者が80%以上</p>	<p>・道徳的な価値を育むことを学級経営上の目標とする。</p> <p>・日常生活の指導や生活単元学習の時間において、特別の教科道徳の内容を適切に取り扱う。</p> <p>・「思いやり」や「豊かな心」を表現した児童生徒の具体的な姿を、連絡帳や通信等で保護者に伝える。</p>	A	<p>・アンケート結果は、数値的には職員・保護者とも中間からやや微減だが、「どちらかと言えばそう思わない」とした保護者が1名で、概ね良好な評価結果となった。</p> <p>・日常的に、他者への思いやりや社会性について指導・支援するとともに、授業において、感動するなどの豊かな心を身に付ける教育活動に取り組んでおり、少しずつ児童生徒の心の成長が行動となって表れている。</p> <p>・知的障害のある児童生徒の他者意識や思いやりを育てるためには、発達段階を踏まえる視点と生活年齢の視点の両者のバランスが不可欠である。今後も、授業に加え、日常生活の具体的な場面を捉えて、道徳的な価値を育む内容を適切に取り扱う中で、個々の実態に応じた支援を行っていく。</p>	A	<p>・先生方の地道な取組が成果に表れていると感じました。</p> <p>・設定した数値目標をいずれも高い数値でクリアしており、良い教育活動が実施されていると感じます。1名ですが「どちらかと言えばそう思わない」とした保護者がいらっしゃるとのことなので、理解いただけるよう継続して取り組んでください。</p> <p>・職員、保護者の評価が中間評価から数値が下がっていることから、この間に実施した取組について振り返りが必要があると思います。</p>	生活指導部
●心の教育	<p>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</p>	<p>○「いじめ」の芽となる事象について、職員間や保護者との連携により早期発見と適切な対応をしていると答える教員が80%以上</p> <p>○児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者が80%以上</p>	<p>・いじめの未然防止、早期発見と対応ができるよう、職員の報告・連絡・相談体制を整える。</p> <p>・年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の保護者との会話や連絡帳を活用して情報の共有に努める。</p> <p>・人権・同和教育に関する研修を行う。</p>	A	<p>・アンケート結果は、保護者については中間と同様の評価だったが、職員の評価はやや数値が落ちていた。全般的には、概ね良好な評価結果と言える。</p> <p>・今年度は、2月上旬現在でいじめの案件は報告されておらず、学校生活アンケートにおいてもいづくか気になる内容はあったが、担任等と保護者の連携により問題化することなく、未然の対応が適切に行われている。</p> <p>・職員間の縦連帯の体制や、保護者との連携は、あらゆる教育活動の基盤となりうることであり、今後も、引き続き密な連携を心掛け、保護者の疑問や不安に真摯に答える姿勢をもって丁寧に対応していく。</p>	A	<p>・これまでの丁寧な対応が高い評価となっていると感じます。</p> <p>・設定した数値目標をいずれも高い数値でクリアしており、いじめに関する取組が充実していると評価できます。今後も高い水準を維持できるように保護者と職員の間で密な連携を心掛け取り組んでください。</p> <p>・職員の評価が中間評価から数値が下がっていることから、この間に実施した取組について振り返りが必要があると思います。</p>	生活指導部
●健康・体づくり	<p>●運動習慣の改善や定着化</p> <p>●望ましい生活習慣の形成</p>	<p>○朝の運動や体育の授業により、子どもに、体を動かす習慣や体力が十分あると答える保護者が80%以上</p> <p>○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べていると回答した児童生徒が80%以上</p>	<p>・朝の運動を毎日実施するとともに、体育、音楽、生活単元学習等での身体表現との関連付けを意識した授業実践に取り組む。</p> <p>・身体のことや生活習慣に関する単元を設定する。</p> <p>・保健だよりを年8部発行する中で、運動習慣や生活習慣に関する内容を4部以上で取り上げる。</p>	A	<p>・アンケート結果は、保護者が良好、教員は横ばいである。保護者にとっては、我が子の体力や生活習慣といった、子どもの成長が可視化されやすい項目であったことが、高い評価につながったのではないかと推察する。</p> <p>・朝の運動などの授業、保健室の啓発に加え、家庭での生活習慣確立の対応もあり、連携のとれた日々の積み重ねがみられた。</p> <p>・体力や生活リズムの向上は、社会生活や就労においても重要な要素であることを踏まえ、今後も、学部を超えて一貫した継続的な指導を行う必要がある。</p>	A	<p>・夏場暑くなり、プールもできない等、体を動かす機会が減るので、秋冬はグラウンドを走る時間を作ってほしい。(体力づくりと、夜寝るためのセロトニン)</p> <p>・「朝食を摂る」当たり前のようで、意外と摂っていない子も多いので、96%はすごいです。</p> <p>・体力や生活習慣に対する意識が高まるように働きかけられているのが高い評価でわかりました。</p> <p>・設定した数値目標をいずれもクリアできており、運動習慣や生活習慣に関する良い授業が実施されていると感じます。保健だより発行など大変だとは思いますが、継続して取り組んでください。</p>	保健厚生部
●地域支援	<p>●地域や関係機関と連携した包括的な支援体制の構築及び取組の充実</p>	<p>○鳥栖田代分校は、支援会議や保育所等訪問を実施し、地域や関係機関と連携しながら子どもを支援していると回答する保護者及び職員が70%以上</p> <p>○学校間、居住地校交流、地域交流をとおして、相互の理解が深まったと答える保護者、職員が80%以上</p>	<p>・地域や教育委員会主催の会議や研修に参加し、情報収集や協働体制づくりに努める。</p> <p>・支援会議や教育支援計画作成に当たって、関係機関や専門家の意見を多く取り入れる。</p> <p>・実態に応じて、年に数回、居住地校交流や地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。</p> <p>・交流の様子を連絡帳で保護者に伝えるとともに、管理職が居住地校に出向き、交流の内容を通信等で伝える。</p>	A	<p>・アンケートのうち、関係機関との連携については、数値的には減だが定期的な取組の浸透による差であり、評価は概ね良好である。</p> <p>・保育所等訪問は、他校に比べても活用頻度が高いと思われ、専門的な見地からの助言や情報共有により、学校の支援の充実にもつながっている。</p> <p>・交流については、アンケートには保護者・教員とも中間より良好化している。居住地校交流の実施や、田代まちづくり推進センターでの清掃活動など、交流の取組が充実してきたことが評価につながっていると考える。</p> <p>・保育所等訪問や居住地校交流の取組の充実を踏まえ、中間評価より達成度を上げている。</p> <p>・関係機関との連携や交流については、保護者からも積極的に進んでほしいという意見もあり、新設校においても、地域の学校とでの一層の充実を期待したい。</p>	A	<p>・昨年10月に、交流会を開いてもらい数名の方と交流しました。皆さん元気で明るく、こちらが元気をもらいました。</p> <p>・これまでにもしっかり行われてきた関係機関との連携や交流についての周知・啓発がうまくいき、保護者などにも伝わっていったことが評価に表れていると感じました。</p> <p>・交流については、保護者の評価が中間評価より良好化されていると、取り組んできたことが保護者へ伝わってきたのは良かったと思います。今後も保護者へ取組内容が伝わる努力をお願いします。</p>	地域支援部 総務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の削減</p> <p>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</p>	<p>・話し合いや事務作業の効率化及び授業実践の充実の両立を目指すよう働き方ガイドラインを作成し、職員の行動目標の指針とする。</p> <p>・年間の「完全定時退勤日」を設定するとともに、3日前から職員へ予告し業務調整を促す。</p> <p>・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。</p>	A	<p>・アンケートの評価は、時間外在校等時間の上限遵守及び年次休暇の取得の実態とリンクしており、8〜9割の職員は業務効率化を意識し、取り組んでいることが伺える。</p> <p>・「ワーキングガイドライン」による取組により、会議の簡素化や業務の削減を図ることはある程度できている。その一方で、面談や日常的な聞き取りを通して、効率化ややりがい優先を、時間をかけてじっくり取組たいとする教員も一定数いることが解った。</p> <p>・組に勤務時間や年次取得日数だけでは「働き方」は測れないことを踏まえ、教育の質や職員のコンディション(負担感とやりがいのバランス)といった要素も含め、働きがいと働きやすさを考えていく発想も必要と考える。</p>	A	<p>・先生たちも休めるときはしっかり休んでください。</p> <p>・表面上での時間や日数ではなく総合的な「働き方」のバランスという視点での捉え方は今後も大切な指針となと感じました。</p> <p>・時間外在校等時間については、職員の業務効率化を意識し取り組んでいることについての努力を評価いたします。</p> <p>・年次休暇の取得については、最終評価時の取得状況を提示していただければと思います。実際取得できた日数を基に次年度の目標日数を設定してほしいかがでしょうか。</p>	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○自立活動の推進	<p>○自立活動に係る専門性の向上と、授業実践の充実</p>	<p>○自立活動についての知見を深め、児童生徒一人一人の具体的な指導内容を検討することができたと回答する教職員が80%以上</p>	<p>・児童生徒一人一人の具体的な指導につながるよう、本校の児童生徒を対象とした自立活動の事例研修を行う。</p> <p>・知的障害の自立活動に関する先進的な取組を知り、それぞれの指導に生かせるよう、外部人材を活用した研修を実施する。</p>	A	<p>・アンケートは、中間に引き続き「高く評価できる」、「評価できる」と答えた職員の割合が高かった。</p> <p>・事例研修の取組を通して児童生徒の自立活動の指導への意識は高まっている。また、担当部署が個別の指導計画の自立活動の欄をチェックすることで、適切な目標設定や評価に資することもできた。</p> <p>・新設校においては、自立活動の時間における指導を設定し、実践の充実を図ることを掲げており、引き続き、高い意識をもって取り組んでいきたい。</p>	A	<p>・特別支援教育ならではの自立活動の指導は、大切に取り組みたいものと思います。</p> <p>・数値目標も達成し、自立活動の指導が充実していると思います。今後も引き続き取り組んでください。</p>	研究部 自立活動部
○教育DXの推進	<p>○教育活動におけるICT等の機器活用</p> <p>○デジタル化による効率的な校務の実施</p>	<p>○ICT等の機器を用いて、児童生徒の教科等の学習をする機会が増えたという教員、保護者が70%以上</p> <p>○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員が70%以上</p>	<p>・ICT活用に係る職員研修や実践事例の紹介を行う。</p> <p>・本校における児童生徒へのICT利活用の事例や指導内容を通信等で伝える。(分枝だより)</p> <p>・研修等のオンデマンド化やアンケートや提出物のデジタル化を一層推進する。</p>	B	<p>・学習面に関するアンケートでは、中間と比べて、保護者の数値が上がり、教員の数値が下がっている。保護者への周知は一定の効果があった一方で、ICT機器の活用の実践については、機会の確保が難しい場合もあることが伺える。</p> <p>・研修や事例の紹介は行っており、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・校務DX化については、中間からアンケートの数値が落ちており、その必要度と比べて、実際の取組状況からは職員の意識にも差があることが伺える。</p> <p>・今後の学校業務において、ICT機器の活用や校務DX化は不可欠なものであることを踏まえ、一層の取組の強化を図る必要がある。</p>	B	<p>・どんなアプリを使っているのか、それで本人が理解できているのか、実際操作しているところを見られないので、授業参観や動画撮影などで見られたら安心できます。</p> <p>・しやべらなくてもPECSのような絵カード類やプログラミングなど、時代に合わせたデジタルの活用をやってみてほしいと思います。</p> <p>・学校現場でのICT機器の活用については迅速には行きにくい面もあると感じます。急速に進むAIやデジタルなどの活用には時間も要する部分があるのではないかと感じますが、できることから徐々に取り組んでいただければと思います。</p> <p>・評価がしづらいと思いますが、今後ICT機器の活用や教育DX化は不可欠なものであると思われるので、今後も引き続き職員研修等実施してください。</p>	ICT教育支援部 管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・アンケート結果は概ね良好で、保護者からの評価も高い。分校閉校後の新設校においても、これまでの丁寧な対応や教育活動が継続されることへの期待が寄せられている。一方で、一部の項目で職員評価が中間より下がった点については、実施した取組の振り返りを行い、次年度につなげていくこととしている。項目ごとの数値目標は高い水準で達成され、生活習慣の改善、心の育成、自立活動の充実など、教員の地道な努力と家庭と協働した取組が成果につながったと思われる。</p> <p>・いじめ防止については丁寧な連携が奏功し、報告件数もなく、高い水準を維持している。関係機関連携や交流活動も周知が進み、保護者の評価が向上している。今後も取組内容を保護者に伝える工夫が求められる。</p> <p>・将来の夢や目標に関する指導では、職員と保護者の評価に差がみられ、より丁寧な説明や啓発が必要とされている。ICT活用については職員個々の意識の差を埋めることが求められ、保護者に対しては、授業参観や動画など、活用場面が見える形で提示することが安心感につながると指摘されている。</p> <p>・働き方改革では、業務効率化の努力が認められる一方、やりがいとのバランスを重視する意見もあり、総合的な「働き方」を考慮する視点が求められている。年休取得状況の提示や次年度目標の検討など、透明性ある運用も期待されている。</p>
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------